

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000160	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成19年10月1日	
法人名	株式会社 カスタムメディカル研究所			
事業所名	グループホーム 野の花			
所在地	(245-0053) 横浜市戸塚区上矢部町2115-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成22年10月14日	評価結果 市町村受理日	平成23年2月7日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhvu-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?ICD=1491000160&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は栄養バランスが良く、目でも楽しめるメニューでお出ししており入居者様と職員で順番に「いただきます」「ごちそうさまでした」と声掛けをしてメリハリをつけています。
どこの家庭でも行われていることを皆様で味わいながら家庭的な団欒の中で美味しく召し上がって頂いています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-4 クゲスマファースト 3階		
訪問調査日	平成22年11月17日	評価機関 評価決定日	平成23年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

横浜市戸塚区を中心に十数か所の介護サービス事業所を持つ「株式会社 カスタムメディカル研究所」が運営するグループホーム「野の花」は、平成19年10月に開設された事業所で、その人らしさを尊重し、ひとりで散歩に出かける利用者があるなど能力に応じた対応をし、食事については、本社の管理栄養士がバランスのとれた献立を作成し、家庭的な味付けを大事に一家団欒の雰囲気を考えている事業所です。
このグループホームの優れている点として、まず第一に利用者の能力に応じて一人ひとりの要望を受け入れていることが挙げられます。利用者一人で散歩に出かけたり、選挙の投票や買い物・外食に職員が同行したりしています。また、医療連携加算を取っており、看護師と24時間いつでも連絡が取れる体制が整えられ、2週間に1度内科医、週に1度の歯科医師の往診が来ています。その他、近隣住民との交流を深めていることが挙げられます。自治会に加入し、地域の運動会や夏祭りに見学に行ったり、近隣の地域ケアプラザの行事に積極的に参加しています。グループホームの避難訓練やクリスマス会に近隣の住民宅を訪問し、行事への参加を呼びかけています。運営推進会議には、自治会長の他、近隣の住民の方や地域の消防署の職員にも参加してもらっています。
このグループホームの工夫している点は、専門の事務職員が配置されていることが挙げられます。専門の事務職員が居ることにより、他の職員が利用者により多くの時間接することが出来るようにしています。また、生活保護の受給者も数多く受け入れています。費用的に上限がある中、工夫により、外食など利用者の要望に添うようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 野の花
ユニット名	マーガレット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい自然な姿で過ごせるような家庭的な環境作りをすると共に安全・健康管理に努めている。	理念は、玄関、リビング、事務所に掲示し、常に実践を意識しています。朝礼等において理念の中にある「その人らしさ」の対応ができているかどうかを確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事（お祭り・運動会等）には参加させて頂きクリスマス会を開催する時は近所の方々をお誘いして参加して頂いている。又、散歩の時には近所の方に挨拶をし日常的に交流を図っている。	自治会に加入し、地域の運動会、夏まつりに見学に行っています。散歩の時には、ゴミ拾いを行っています。地域の保育園との交流や中学生の福祉体験を受入れをしています。避難訓練やクリスマス会には、近隣の方に参加してもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者の集い・施設見学でグループホームに関するQ&A等を行って認知症の人への理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方々、利用者様も参加させて頂き報告や意見交換を行いサービス向上に活かしている。	今年度は、4月、7月、10月に開催されています。地域の消防署職員が参加し、災害時に具体的に地域の住民の方が何をやってもらいたいかを運営推進会議に地域住民として参加している方に協力をお願いしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市のグループホーム連絡会に加入し研修等を通し横の繋ぎをもつようにしている。	月に1度、必ず生活保護の担当者へ本人の状況を文書で伝えています。戸塚区感染症対策指導者養成研修に参加したり、戸塚区認知症高齢者グループホーム連絡会の交換研修に参加しています。その他横浜市や戸塚区主催の研修には参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束しないケアをしているが、夜間は職員が少ないため玄関の施錠を行っている。	「身体拘束ゼロへの手引」のマニュアルを備え、社内研修で「身体拘束のないケアに向けて」と題して研修を行っています。玄関の施錠は、基本的にしていません。夜間などにフットコールを利用していますが家族等に十分説明し理解を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加した職員による研修内容の報告会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては研修等で情報を得ながら学び職員やご家族と話し合い活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用契約書・重要事項説明書を利用者様のご家族様と一緒に読み合わせし説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度の運営推進会議等でご家族との意見交換を行っている又、意見箱も設置している。	「苦情対応マニュアル」「苦情・相談受付表」「苦情記録票」を整備しています。家族訪問時には、「家族連絡ノート」に訪問時に対応した内容を記載し、要望等を聞いています。月1回「ご家族の皆様へ」と題して家族へ文書を送っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼やミーティングで話し合いの場を設け職員の意見や提案を聞き反映させている。	グループホーム全体会議を10月に開催しています。管理者は、職員からの意見や提案を言い易い雰囲気作りをしています。職員の異動があった場合には、利用者へのダメージを少なくするためにマンツーマンで新人職員を指導しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務形態一覧表を本社に提出してもらい勤務状況を把握している 処遇改善交付金の申請を行い処遇改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の管理者会議を開きその際社内研修実施し研修内容をホーム職員への周知徹底するよう努めている又、横浜市実務研修に1名推薦し受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市のグループホーム協議会に加入して連絡会の研修に参加し同業者との意見交換をし交流を深めサービスの質を向上させる取り組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の要望を十分に聞き不安のない安心して過ごせるように努め職員はカンファレンスを行い毎朝のミーティングで話し合いをして安全確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のアセスメントでご家族の困っていること、不安なことや要望等を聞き不安のないように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めご家族様等の協力を得ながらサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事はして頂きできない事は一緒に行い又は手伝って頂いたり暮らしを共に助け合えるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族の絆を大切にしながら共にご利用様を支えていく関係をコミュニケーションを取りながら築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が馴染み親しんだ馴染みの友人との電話や訪問が途切れないように努めている。	2・3ヶ月に1度、友人が面会に訪れています。利用者の希望により以前に住んでいたところを職員が付き添い訪問しています。毎年1回、小旅行と称して神奈川県内の鎌倉などを訪問しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりが持てるよう職員が間に入りレクリエーションに参加して頂きコミュニケーションを取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事などにお誘いしたり、これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向を把握し、その人らしく日々生活できるように支援している。	一人ひとりの思いや意向を声掛けを十分に行い把握するようにしています。困難な利用者には、顔の表情や寄り添いながら傾聴をよく行っています。それでも把握できない場合には、質問の仕方を変えたり、言葉を変えて意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴をアセスメントシートにて把握しホームでの生活に活かせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に基づき、一日の過ごし方を把握し心身の状態を見極めて有意義に一日が過ごせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われるカンファレンスで職員同士意見を出し合い作成した介護サービス計画書は家族に提示して同意を得ている。	基本的には3ヶ月に1度カンファレンスを行い見直しをしています。カンファレンス前に本人・家族・看護師・かかりつけ医から意見などを聞いています。カンファレンスでは、まず職員間で現在の評価を行い、話し合いながら計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝礼で、日勤・夜勤等の申し送りにて個別の情報の共有に努めている。 個別の記録に記入し介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる個々のニーズに沿えるようご家族とも相談しながら柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児や中学生の体験学習、ボランティアさん等を通して生活を楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医師による2週間に1回の訪問診療及び定期的に歯科診療も行っている。又ホームでは医師との連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、本人や家族の意向を尊重して決定しています。2週間に1度かかりつけ医が往診に来ています。歯科医師は、週に1度往診に来ています。眼科・泌尿器科などの専門医には、職員が付き添い受診しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や気づきをすぐに看護師に連絡でき、看護師は医師と連携し適切な指示が得られるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が安心して治療できるようにご家族、主治医、病院関係者との情報交換や相談をし、常に連絡が取り合えるような関係作りを心がけている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	24時間体制の医療連携はとっているがホームでの終末期ケアは行っていない。 早い段階から本人、家族等と話し合いながらホームで出来る事を十分に説明しながら方針を共有している。	「利用者重度化に関する指針」を整備し、ホームでの終末期ケアは行っていないことを入居時に本人や家族に説明をしています。職員に対しては、終末期ケアについての研修の計画を立て方針の共有を図ろうとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてマニュアル化し目に付く所に掲示している。 初期の対応については今後も定期的に訓練していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2～3回夜間を想定した消防避難訓練を利用者様と行っている。 運営推進会議において地域の方々、消防も含め災害時についての協議を行っている。	戸塚消防署職員の指導の下、3月24日には消火器訓練等を行い、9月27日には夜間想定消防訓練を行っています。運営推進会議において地域住民との協力体制を検討しています。災害時の備蓄としてポータブルトイレなどを準備しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは一人ひとりの人格を尊重し利用者様の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をするように心がけている。	「プライバシー保護と個人情報の取り扱いについて」を玄関に掲示していません。職員は、人生の先輩という意識を常に持ち、人格を尊重してケアにあたっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ご本人の希望や思いを表すことができるような環境作りをしその希望や思いに耳を傾け自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース体調に合わせてその日をどのように過ごしたいかその人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回来る理美容と服の好みを聞くなどして身だしなみに気を使い清潔でその人らしいオシャレができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるよう彩り、香り等工夫し利用者様と職員と一緒に食事している。 準備や片づけができる方には一緒にやっています。	栄養のバランスに心掛けた献立を本社の管理栄養士が作成し、ユニット独自に利用者の意見などを参考に献立に一工夫しています。能力に応じて料理の準備や後片付けを利用者が行っています。誕生日会や行事には特別な献立を立てています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調管理ができるよう食事量、水分量は毎回チェック表に記入している又、個々の状態に合わせて刻み食やトロミを付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている一人ではできない方には介助をしながら口腔ケアを行って定期的な歯科受診も受け付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄リズムを把握して声かけをしトイレ誘導している失敗の減少とオムツに頼らないように自立に向けた支援を行っている。	トイレ誘導は、毎日、定時に5回本人の意向を確認しながら行っています。適切な誘導によりトイレの場所が分からなかった人がその場所が分かるようになったり、パットとリハビリティパントの方がパットだけですむようになったりしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために牛乳やプルーン等を召し上がって頂いている。天気の良い日は散歩へ行き毎日の体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	シャワー浴も取り入れて一人ひとりの体調を考え利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援している。	利用者の身体状況や体調などを考慮し、基本的には週2～3回程度の入浴となっていますが、希望があれば自由に入浴することが出来ます。自立で入浴出来る人には本人の希望通りの入浴に処しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその時の状況に応じて室温等環境を整えいつでも安眠・良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の内容は全職員が理解できるように申し送りノートに記入しており服薬の支援と症状の変化の確認をするよう努めている 症状変化のある時は医師・看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割分担を持って一日を充実して楽しく過ごせるように支援している。又天気の良い日は公園へ散歩へ行き気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に添って1対1での外出もできるよう支援している。又お誕生日に外食へ出かけたり、動物園なども行き大きなイベントも希望に答えられるようにしている。	天気の良い日は近隣の公園への散歩や身の回り品の買い物、外食、ドライブ、行楽地へ出かけるなど、可能な限り利用者の希望に沿えるよう外出の支援を行っています。日当たりの良いベランダでの外気浴も取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のお祭りやショッピングに外出された時はご自分のお小遣いを持って好きな物を買って頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じていつでも自由に電話をかけて頂くことができます。手紙は便せんを用意してあり書けない方には代筆もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔感を保ち温度調節に気を配っている又リビングには季節感のある飾り付けをして不快や混乱を招く事なく居心地良く過ごせるような工夫をしている	リビングは、明るくゆったりとしており、空調も適宜で不快な臭いや騒音もありません。廊下やリビングの壁面には利用者の貼り絵や塗り絵などの作品が飾られ、季節の花や、飾りつけなどがされ、居心地よく過ごせる配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルにある自分の席とテレビの前のソファに自由に座ることができ新聞を読んだりテレビを見ながら利用者様同士が思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様やご家族と相談しながら馴染みの物、使い慣れた物や好みの物を活かして居心地良く過ごしていただけるように支援している。	ダンスや仏壇、置時計、テレビ、家族の写真や馴染みの小物が持ち込まれ思い思いの過ごし方をしています。部屋の換気は適宜行われ室温管理に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活ができるようテーブル拭きや下膳等、できる事はして頂き持っている力を引き出すような支援をしている。		

事業所名	グループホーム 野の花
ユニット名	コスモス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい自然な姿で過ごせるような環境作りを行い安全で安心な共同生活が送れるように朝礼、ミーティング等で話し合い実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には積極的に参加させていただいている 又、近くの公園への散歩時はゴミ拾いを行い日常的に交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習を受け入れている 又地域包括支援センターからの介護者の集いの方たちの施設見学を行い認知症の人への理解を深めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度運営推進委員会を行い家族や近隣の方ケアプラザの方、消防署の方と意見交換を行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携 区役所の保護担当との連携を取り実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしないケアを実践している 転倒事故防止のため夜間のみやむ得ずセンサー、玄関の施錠を使用している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し学び職員一人ひとりの言葉の暴力などないように注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ理解が充分でないので研修や勉強会に参加していき活用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者家族にわかりやすいように十分に説明納得できるように図っている 不安のないように話し合いを持ち理解を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの要望はできる範囲で取り入れている ご家族からの意見は面会時や運営推進委員会などで聞かせていただき今後の運営に反映させている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼やミーティングで話し合いの場を設け職員の意見や提案を聞き反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務形態一覧表を本社に提出してもらい勤務状況を把握している 処遇改善交付金の申請を行い処遇改善に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の管理者会議を開きその際社内研修実施し研修内容をホーム職員への周知徹底するよう努めている又、横浜市実務研修に1名推薦し受講できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県や市のグループホーム協議会に加入して連絡会の研修に参加し同業者との意見交換をし交流を深めサービスの質を向上させる取り組みを実施している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の要望を十分に聞き不安のない安心して過ごせるように努め職員はカンファレンスを行い毎朝のミーティングで話し合いをして安全確保に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にアセスメントで利用者様とご家族の要望を十分に聞きとり、不安のないように関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況や生活歴を良く把握して最も良いサービスが何かを見極め必要に応じてマッサージ等他のサービスの利用も考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる事持っている力を引き出せるように食器洗い、食事の下ごしらえ洗濯物たたみ等一緒にしながら談笑し共に暮らしている意識を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	クリスマス会、お誕生日会等にはご家族にも呼びかけ職員、ご家族と一緒に楽しんで頂き共に支えていくようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との人間関係を把握し面会や電話連絡等で関係が途切れないような支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りご利用者様同士がスムーズに関係が取られるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老人ホームに入られた方にはどうされているのかホームへ面会に行きホームからも以前はどうされていたかを電話連絡を取ることもあり関係性を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様としっかりと向き合い話しを聞きどうしてほしいのか何を望んでいるのかを把握しご希望に沿えるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努めアセスメントを充分にとって今までと同じように生活ができるような支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を見極め、利用者様が持っている力を引き出せるように有意義な生活が過ごせるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや3ヶ月毎のカンファレンスにより記録を取りながら職員同士意見を出し合い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況が低下した時は個別に記録を記入し職員間で話し合い共有しながら看護師と連携を取り介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ個々の希望に沿えるように利用者様、ご家族とも相談しながら支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験学習、地域の保育園児との交流、その他ボランティアを通して生活を楽しめるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは24時間対応の医師との連携を取り、利用者様やご家族のかかりつけ医の受診も大切にして適切な医療が受けられるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもの状態と違うような時には医師、看護師に連絡をし適切な指示が得られるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医、ご家族、病院関係と話し合い情報交換をしながら協力を得て常に連絡が取り合えるような関係づくりを心掛けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの終末期ケアは行っていないが24時間体制の医療連携はとっているため、ご家族の意向を伺ってホーム内でできる限りの支援を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを目に付く場所に掲示している 初期対応については今後定期的に訓練をしていく		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応を事務所に掲示し夜間を想定した避難訓練も行っている 点検確認の実施記録を義務づけ災害時には地域の方との協力も得られるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人ひとり言葉遣いを気をつけ利用者様一人ひとりの話をできるだけ傾聴し利用者様の人格を尊重し個人のプライバシーを損なわないような話しかけや対応に気をつけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に合うように耳を傾け自己決定できるようにご家族も交え話し合いながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様は常に主人公であり自分のペースに合わせ尊重しその人の希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、理美容の方が来られ私たちが決めず利用者様に決めてもらっている身だしなみに注意して清潔な衣類で過ごして頂くように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを尊重しメニューを作成している刻み食が多いので目で見て楽しんで頂けるように盛り付けなど工夫している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の立てたものに添って食事作りを行っている 食事量や水分量は個人記録に記入し毎回チェックを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員の方に口腔ケアをしていただいている 一人でできない方には介助しながら口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズムを把握しできるだけトイレでしていただけるように時間誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、牛乳や10時のお茶の時にプルーンを召し上がっていただいている 毎日体操も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調を考え希望に合わせて入浴できるように支援しているが無理のないようシャワー浴も取り入れその人に合ったいつでも自由に入浴できるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心・安全に安眠できるように室温など環境を整えている又眠れない時は話しを聞いたりホットミルクなどを飲んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方されている薬の処方箋は全職員が目を通し、それに基づき日々の服薬の準備をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人できることを見極めながらレクリエーションや台所の手伝いを行い楽しみや気分転換の支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時はできるだけ散歩などに出掛けるようにしている又希望により好きな外食を食べに出掛ける事もある		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベント（お祭りなど）の時などは、お小遣いで好きな物を買って頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がいつでも好きな時に電話をかけたり手紙を出したりできるように書けない方には代筆して支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調節やカーテンが閉めっぱなしにならないよう支援している又、リビングには季節感が味わえるような飾り付けを行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂る自分の席とテレビの前の2つのソファに自由に座ることができる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者様が使い慣れた物を入居時に持参されている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活ができるようリビングでの席を工夫したり、トイレに行きやすいような居室になるような配慮をしている		

目標達成計画

作成日: 平成 23 年 1 月 31 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつながりは運営推進会議と町内行事のみである	町内の自治会へ参加し町内の方と親睦を深め地域との密着を目指す	自治会の集まりへ参加し地域の方々にグループホームへの理解を深めて頂き避難訓練等に参加して頂けるようにする	6 ヶ月
2	36	利用者様ひとり一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような対応をしていく	利用者様に対し人生の先輩という意識を常に持ち人格、プライバシーを尊重する	その人、その時に合った言葉かけを行っていく	3 ヶ月
3	37	利用者様ご本人の希望や思いを表す事ができるような環境作りをしていく	利用者様のペースに合わせてその日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援をするようにする	利用者様と日々コミュニケーションを取り信頼関係を築き思いを伝えやすい雰囲気を作る	12 ヶ月
4	40	食事が楽しくなるような環境作りをしていく	利用者様ができる事は参加して頂き盛り付けや彩りの工夫、スタッフと一緒に楽しく食事する	準備や片づけができる方には一緒にやって頂くようにする	3 ヶ月
5	49	ひとり一人の希望に沿えるように支援していく	利用者様に個々に合ったサービスを行うようにする	自立した人だけではなく車椅子の方でも外出できる機会を設ける	6 ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。